

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
大原情報医療保育専門学校 和歌山校		平成25年4月22日	田中 克実	〒 640-8341 (住所) 和歌山県和歌山市黒田88番地1 (電話) 073-475-8010				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 大原学園		昭和54年4月1日	中本 每彦	〒 101-0065 (住所) 東京都千代田区西神田1丁目2番10号 (電話) 03-3292-6266				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
商業実務	商業実務専門課程	医療事務学科	平成26(2014)年度	-	平成28(2016)年度			
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき、医療機関と連携し、実習を通じて医療請求事務に関する高度な知識・技術を習得し、医療事務職に必要な資格を取得することを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格:診療報酬請求事務能力認定試験(医科)、医療請求事務検定1級、医療秘書実務検定1級 中退率:10.3%(令和4年5月1日時点における在学者39名、令和5年3月31日時点における在学者35名)							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いづれかに記入 1,700 単位時間 - 単位	1,449 単位時間 - 単位	2,477 単位時間 - 単位	878 単位時間 - 単位	0 単位時間 - 単位	0 単位時間 - 単位	
	生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
70人	44人	0人	0%					
就職等の状況	■卒業者数(C) : 17人 ■就職希望者数(D) : 17人 ■就職者数(E) : 17人 ■地元就職者数(F) : 12人 ■就職率(E/D) : 100% ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 71% ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100% ■進学者数 : 0人 ■その他 : (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 医療法人千藍会たかの耳鼻咽喉科、㈱セラム、医療法人青松会 河西田村病院、海南医療センター、社会医療法人弘道会 なにわ生野病院、医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院、社会医療法人真医会、医療法人桜葉会 まろクリニック、医療法人愛晋会 中江病院、社会医療法人 スミヤ、和歌山中央医療生活協同組合等							
	第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL						
	当該学科のホームページURL	https://www.o-hara.ac.jp/senmon/school/wakayama/						
	企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
		総授業時数		1,700 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		450 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間					
	うち必修授業時数		120 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		120 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		450 単位時間						
(B: 単位数による算定)								
総授業時数		- 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		- 単位						
うち企業等と連携した演習の授業時数		- 単位						
うち必修授業時数		- 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		- 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		- 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		- 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		2人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人					
	計		2人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		1人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先である医療機関の医事課(医療事務職、クレーク職)や看護課(看護助手職)、また、診療報酬改定に造詣の深い企業や出版社と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②医療事務分野における学修の中心となる診療報酬請求事務知識、臨床医学知識(体の仕組みや働き、病気の症状、体力の概念やリハビリテーション理論等)、患者対応スキル、医事コンピュータスキル、高齢者対応スキル等の教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

①位置付けについて

教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置付ける。また、委員会での協議結果は大原学園教育本部に提出し、大原学園全校の教育課程編成にも活用していく。

②意思決定の過程について

(ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。

(イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。

(ウ)委員会での協議内容は学園教育本部に提出し、学園全校の教育課程編成にも活用していく。

(エ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長・教務部長・教務課長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目・内容・手法)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
水口 錠二	一般財団法人日本医療報酬調査会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
大浦 順司	海南医療センター	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
田中 克実	大原情報医療保育専門学校和歌山校 校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
太田 史巳充	大原情報医療保育専門学校和歌山校 部長代理	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
吉本 卓真	大原情報医療保育専門学校和歌山校 課長補佐	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
保田 優子	大原情報医療保育専門学校和歌山校	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
中野 吏紗	大原情報医療保育専門学校和歌山校	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月4日 16:40～17:20

第2回 令和4年11月17日 16:20～17:20

第1回 令和5年8月3日 16:40～17:20

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

(1)教育課程変更計画

①短期計画

(ア)マイナ受付等を踏まえた秘書実践(ロールプレイ)の見直し

(イ)2年次カリキュラムにおける実務知識指導の精査

②中・長期計画

(ア)医師事務作業補助に対応するカリキュラム検討

(イ)各種助成制度対応、地域連携の取り組み等の実務に関する研究

(2)課題

①インターネット予約で来院する患者の受付における対応例や起こりうるトラブルと、その対処などの実例について情報収集。

→ワクチン接種や健康診断予約のみ予約を受け付けている。診療予約をオンラインで受け付けたとしても、予約時間前に問診や検査等で早く来院する必要がある場合は結局電話連絡が必要となる。また、診察前検査を行う場合は他診療科との兼ね合いもあり、予約時間を確保しても予定時刻から検査を開始できないことで待ち時間が長くなりクレームに繋がるなど、デメリットの方が大きい。オンライン等で予約を行う場合は、診療に時間を要する診療科は予約枠を限定するなど、診療科毎に臨機応変な対応が必要であり、インターネット予約より電話予約の方が早く予約できるとなれば予約方法によるクレームやトラブルになる可能性もある。

②新型コロナの5類移行後、診療や受付対応の変化と今後の課題について理解する。

→5類移行後、来院患者数はピークと比較し減少傾向で、入院が必要な患者数も少ない。発熱外来での来院は継続して発生しており、特に診療時間外での外来対応は逼迫している。診療所からの紹介による感染患者の対応について、診療所から受けた紹介時の病状と、実際来院したタイミングでの患者の症状が異なることも多く、診療の現場は対応に追われている。受付や医療事務業務の対応は5類移行前と現在で特に変化はないが、入院患者の面会が緩和されたことにより、面会者の対応数増加による受付や電話での対応量は増えているため、強化を図る必要がある。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

①中規模から大規模の医療機関で、医事課職員の指導の下、実習を実施する。また、病院の基本的機能の理解、病院内における医事課の役割、患者応対方法の実践を学び、身に付けられるよう、内容等の組み立てを調整する。

②医療機関等との連携による実習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革、医療従事者としての意識改革を実現する。

③医療機関担当者と実習部署、実習内容を検討し、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを医療機関等の実務の視点から評価を仰ぐ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

医療機関等に病院実習受け入れ依頼を行い、病院実習受け入れ承諾書を頂戴するとともに、打合せを行い、下記の4点について連携している。

①医事課担当者と打ち合わせを行い、実習日程、実習内容、到達目標、評価指標等を調整・決定

②医療機関内の各施設、各部署の見学、実習の実施

③学生の実習状況の確認及び医事課担当者との情報交換のため、担当教員による訪問

④実習終了時の学生の学修成果の評価

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
病院実習	現場での実習を通して、医療従事者としての資質、行動を理解することを目的とする。 事務員としての業務、患者対応、他部署との連携などを実践レベルまで身に付ける。	海南医療センター、医療法人共栄会名手病院、公立紀南病院組合紀南病院、社会医療法人黎明会北出病院、独立行政法人労働者健康安全機構和歌山ろうさい病院等 計11件

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために以下のとおり教員研修の環境を整える。

「大原学園 教職員研修規程」の目的に定めるとおり、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるための環境を整備し、所属長の指示または本人の意思により、公平に研修等を受講する機会を与えるものとする。校内、校外において、学園が企画する研修は以下のとおり。

- ①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
- ②大学教授等専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施
- ③学内に設置される附帯教育講座を利用した自己啓発

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	施設基準・診療報酬改定要点	連携企業等:	がん研有明病院 田中 正典様
期間:	令和5年2月20日	対象:	医療事務学科教員
内容	①施設基準の届出業務、管理業務について ②診療報酬改定に伴う病院の対応について		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	学校の先生が行う、不登校の子どもとの人間関係づくり	連携企業等:	和歌山県教育カウンセラー協会
期間:	令和4年11月26日	対象:	和歌山校職員
内容	不登校の子供に対する接し方、対応について		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	診療報酬請求事務関連研修等	連携企業等:	調整中(令和5年9月現在)
期間:	令和6年3月予定	対象:	医療事務学科教員
内容	診療報酬改定の予測と対応方法		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	教育現場でのカウンセリングについて	連携企業等:	和歌山県教育カウンセラー協会
期間:	令和5年11月頃	対象:	和歌山校職員
内容	教育現場でのカウンセリング手法、注意点の説明		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行い、有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2)学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3)教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行なう事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。
(4)学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5)学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8)財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9)法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11)国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
 学生の社会適応能力についての意見を頂戴し、単なる資格取得のみならず、実務を意識した教育を行い、座学と実学の両方を修得するための指導を取り入れる。また、全員参加の学校行事、クラブ活動やボランティア活動などの社会貢献活動を通じてコミュニケーション力の向上に向け改善を行っている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
内海 三千代	和歌山市立西脇幼稚園	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
酒本 正志	ASMILE株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
大浦 順司	海南医療センター	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
川嶋 裕一	株式会社ディープラス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>
 公表時期: 令和5年10月20日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。
- ②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。
- ③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①概要 ②教育方針 ③沿革
(2)各学科等の教育	①入学定員 ②受入方針 ③進級の認定 ④卒業の認定 ⑤称号の付与 ⑥目標とする試験 ⑦主たる試験の合格実績 ⑧卒業生の進路
(3)教職員	①教職員数 ②教職員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	①キャリア教育 ②実習・実技等 ③就職支援等
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②課外活動
(6)学生の生活支援	①完全担任制 ②就職教育
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等
(8)学校の財務	学園の財務状況公開
(9)学校評価	学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	留学生の受入
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>
 公表時期: 令和5年10月20日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 医療事務学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			一般教養Ⅰ	ビジネスで一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ	1前	30	1		○		○	○			
2	○			一般教養Ⅱ	ビジネスで一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ 一般社会生活で使用される頻度の高い漢字能力を身に付けることを目的とする	2前	30	1		○		○	○			
3	○			キャリアデザインⅠ	面接試験において求められるビジネスマナーの基礎を学ぶ 面接の入退室および自己PRができるようになる	1前	30	1		○		○	○			
4			○	ビジネスマナー	ビジネス電話対応や接客、接遇に関するルールを学習する 企業内で必要とされる基本的なマナーを習得する	2後	60	2	○	△		○	○			
5			○	パソコン実習Ⅰ	Word、Excelを操作するための基礎的な知識を身につける実習	2通	30	1			○	○	○			
6			○	キャリアデザインⅡ	面接試験に向けての準備作業や集団・個人での実戦練習を行う	2前	30	1		○		○	○			
7	○			医療請求事務基礎Ⅰ	診療録（カルテ）から明細書（レセプト）を作成するための基礎的な知識を学ぶ 診療報酬における請求事務（外来）の基礎知識を理解する	1前	60	2	○			○	○			
8	○			医療請求事務基礎Ⅱ	医療請求事務基礎Ⅰで学んだ知識を踏まえ、学科知識、レセプト知識を学ぶ 診療報酬における請求事務（外来）の学科知識、レセプト知識を理解する	1前	30	1	○			○	○			
9	○			医療請求事務基礎演習	診療録（カルテ）から明細書（外来レセプト）を作成するための総合演習を行う	1前	60	2		○		○	○			
10	○			医療請求事務応用Ⅰ	診療録（カルテ）から明細書（入院レセプト）を作成するための応用的な知識を学ぶ 診療報酬における請求事務（入院）の応用知識を理解する	1前	60	2	○			○	○			
11	○			医療請求事務応用Ⅱ	医療請求事務応用Ⅰで学んだ知識を踏まえ、学科知識、レセプト知識を学ぶ 診療報酬における請求事務（入院）の学科知識、レセプト知識を理解する	1前	30	1	○			○	○			
12	○			医療請求事務応用演習	診療録（カルテ）から明細書（入院レセプト）を作成するための総合演習を行う	1通	30	1		○		○	○			
13	○			医療秘書実務基礎Ⅰ	医療秘書の職務と役割を理解するための基礎的な知識を学ぶ 医療秘書における基礎的な知識を理解する	1前	60	2	○			○	○			

14	○		医療秘書実務 基礎Ⅱ	関連法規と基礎医学を理解するための基礎的な知識を学ぶ	1 前	30	1	○			○	○		
15	○		医療秘書実務 基礎演習	医療秘書の職務と役割を理解するための基礎的な知識を学ぶ 医療秘書、関連法規、基礎医学の理解を深める	1 通	30	1	○			○	○		
16	○		医療秘書実務 応用Ⅰ	医療秘書の職務と役割を理解するための応用的な知識を学ぶ 医療秘書における応用的な知識を理解する	1 後	30	1	○			○	○		
17	○		医療秘書実務 応用Ⅱ	基礎医学を理解するための応用的な知識を学ぶ	1 後	30	1	○			○	○		
18	○		医療秘書実務 応用演習	医療秘書実務応用Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を踏まえ、様々な場面での知識を学ぶ 患者接遇、関連法規、基礎医学の知識を深める	1 後	30	1	○			○	○		
19	○		病院実習Ⅰ	保険医療機関で医療事務員として必要な基礎知識を学ぶ 病院内で行う医療事務の職業内容を理解する	1 後	60	2				○	○	○	○
20	○		病院実習Ⅱ	保険医療機関で医療事務員として必要な患者対応を学ぶ 医療事務員としての役割、業務内容を理解し、患者に対し、適切な言葉遣いで対応する	1 後	60	2				○	○	○	○
21		○	医療秘書実践 Ⅰ	受付での患者対応マナーや対応方法（挨拶～初診受付）を身に付ける	1 前	30	1	○			○	○		
22		○	医療秘書実践 Ⅱ	受付でのマナーや対応方法（会計、再診受付まで）を身に付ける	1 通	60	2	○			○	○		
23		○	医療秘書実践 Ⅲ	受付での患者対応マナーや対応方法（様々なタイプの患者対応）を身に付ける	1 後	30	1	○			○	○		
24		○	診療報酬基礎	診療録（カルテ）から明細書（レセプト）を作成するための基礎的な知識を学ぶ 診療報酬における請求事務の基礎を理解する	1 後	30	1	○			○	○		
25		○	診療報酬応用 Ⅰ	診療録（カルテ）から明細書（レセプト）を作成するための応用的な知識を学ぶ 診療報酬における請求事務の応用的な内容を理解する	1 後	60	2	○			○	○		
26		○	診療報酬応用 Ⅱ	診療報酬応用Ⅰで学んだ知識を踏まえ、診療録（カルテ）から明細書（レセプト）を作成するための応用知識を学ぶ	1 後	60	2	○			○	○		
27		○	診療報酬演習	診療録（カルテ）から明細書（レセプト）を作成するための応用的な演習を行う	1 後	60	2	○			○	○		
28		○	医療キャリア デザインⅠ	医療事務員として仕事をするための心構え・準備内容を理解する	1 後	30	1	○	△		○	○		
29		○	医療キャリア デザインⅡ	自己分析を行い、自らの長所、短所を明確にし、表現する	1 後	30	1	○	△		○	○		

30		○	患者接遇概論	患者接遇に必要な知識・スキルを身に付ける 実習前に患者接遇に必要な知識を学習し、 対応できるようにする	1 後	30	1		○	○	○							
31		○	病院研究	病院就職に必要な知識やスキルを身に付ける 病院の研究を行い自身の強みと照らし合わせ、 それを表現できるようにする	1 後	30	1		○	○	○							
32		○	ビジネス教養 I	企業内で多岐にわたり使用される電卓のスピー ド、正確性を高める実技演習を行う	1 前	30	1		○	○	○							
33		○	医療キャリア デザインⅢ	医療事務員としての自己表現力を身に付ける	1 後	60	2	○	△	○	○							
34		○	病院実習Ⅲ	総合病院等で医療事務員として必要な行動 を学ぶ 病院内での医療事務員の役割を理解し、業 務を遂行する	2 前	60	2			○	○	○	○					
35		○	病院実習Ⅳ	総合病院等で医療事務員として必要な行 動、態度、技術を学ぶ 病院内での医療事務員の業務内容を理解 し、自ら行動する	2 前	60	2			○	○	○	○					
36		○	医薬品知識	医薬品の取り扱いに関する基礎的な知識を 学ぶ 医薬品の種類、保管方法等について理解す る	2 前	30	1	○			○	○						
37		○	秘書実務	秘書的業務についての基礎的な知識と技能 を学ぶ	2 前	60	2	○	△	○	○							
38		○	秘書総合	秘書的業務についての知識と技能を身に付 けるための応用的な演習を行う	2 前	60	2		○	○	○							
39		○	簿記入門Ⅰ	株式会社における複式簿記の基本原則を学 ぶ	2 前	30	1	○			○							○
40		○	3級商業簿記 基礎	株式会社における複式簿記の基本原則、簿 記の基本原則を学ぶ	2 前	90	3	○			○							○
41		○	3級簿記総合	基礎レベルではやや難しい会計処理を問題 演習を通じて学ぶ	2 通	120	4		○		○							○
42		○	2級商業簿記 基礎Ⅰ	基本的な財務報告書類の作成方法・株式会 社会計の基礎を学ぶ	2 前	60	2	○			○							○
43		○	2級工業簿記 基礎Ⅰ	工企業を前提とする会計処理の基礎を学ぶ	2 前	60	2	○			○							○
44		○	2級簿記総合 Ⅰ	商企業及び工企業の会計処理を問題演習を 通じて学び、本支店会計、連結会計、原価 計算の基礎を学ぶ	2 前	90	3		○		○							○
45		○	接遇論マナー 実践	患者接遇に必要な知識・スキルを身に付け る 実習前に患者接遇の知識とスキルを身に付 け、スムーズに対応できるようにする	2 前	60	2		○	○	○							

46			○	ビジネス教養Ⅱ	企業内で多岐にわたり使用される電卓のスピード、正確性を高める実技演習を行う	2通	30	1		○	○	○						
47			○	医療ビジネスマナーⅠ	基本的なビジネススキルを身につける身に付けた知識や技能を実際に仕事上で活かせるようになる	2通	30	1		○	○	○						
48			○	請求事務実践Ⅰ	診療力（カルテ）から明細書（レセプト）を作成するための基礎的な知識を学ぶ 診療報酬における請求事務の基礎を理解する	2通	30	1	○		○	○						
49			○	キャリアデザインⅢ	社会環境を理解し、課題をクリアする力を身に付けるための学習	2通	30	1	△	○	○	○						
50			○	サービス知識	接客マナーやサービス提供者としての対応力を身に付ける	2後	30	1	○	△	○	○						
51			○	患者看護論	患者の理解と、看護に関する知識を深める	2通	30	1	○		○	○						
52			○	小児保健	小児に関する基礎知識習得と小児対応について学ぶ	2通	30	1	○		○	○						
53			○	医療秘書実践Ⅳ	医事課や総合受付内等の内部業務知識やマナーを身に付ける	2前	60	2		○	○	○						
54			○	医療秘書実践Ⅴ	受付での患者対応マナーや対応方法（特殊保険や問い合わせ）を身に付ける	2通	30	1		○	○	○						
55			○	医療ビジネスマナーⅡ	ロールプレイングで実践的な知識を身に付ける 医療現場における実践的知識を身に付ける	2後	30	1		○	○	○						
56			○	請求事務実践Ⅱ	診療録（カルテ）から明細書（レセプト）を作成するための応用的な知識の向上 診療報酬における請求事務の応用を理解する	2通	30	1	○		○	○						
57			○	社会保険基礎論	保険の基礎的な知識を学ぶ 医療現場における様々な保険知識の理解をする	2後	30	1	○		○	○						
58			○	医学知識	病院受付でも患者対応できるように医学的な基礎知識を学ぶ	2後	30	1	○		○	○						
59			○	Excel基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用法を習得する	2後	60	2			○	○						○
60			○	Excel応用	MOS Excel試験に合格するために必要な操作に関する総合的な知識を身に付けるための演習を行う	2後	30	1			○	○						○
61			○	医療キャリアデザインⅣ	医療事務員としての自己表現力を身に付け、表現する	2前	30	1	○		○	○						

62			○	病院実習 V	保険医療機関内の組織、それぞれの役割、業務内容を学ぶ 他職種の仕事の業務を理解し、自らの業務を遂行する	2 後	60	2				○	○	○	○
63			○	病院実習 VI	保険医療機関内での多職種との連携業務を学ぶ 医療事務職と多職種との連携業務を理解し、積極的に行動する	2 後	60	2				○	○	○	○
64			○	病院実習 VII	一医療人になるために患者対応から事務的な仕事まですべてを学ぶ 医療事務員として、スムーズに業務を遂行する	2 後	30	1				○	○	○	○
65			○	病院実習 VIII	医療事務員としての応用的な知識も含め、全ての業務を学ぶ	2 後	60	2				○	○	○	○
66			○	メイク基礎 I	JMAの講師による実技指導により、セルフメイク・スキンケアのスキルを身に付ける	2 通	90	3				○	○		○
67			○	ネイル3級 検定対策 I	現役のネイリストによる実技トレーニングと講義	2 前	60	2				○	○		○
68			○	ジェルネイル 初級対策 I	初級ジェルネイル向けのジェル塗布技術を学び反復練習によって身に付ける	2 前	30	1				○	○		○
69			○	店舗運営応用	社会人として働くうえで必要な、ビジネススキル、PCスキルを身に付ける	2 通	90	3	○				○		○
70			○	IT基礎知識 V	基本情報技術者試験の午後試験対策を行う	2 前	120	4	○	△			○		○
71			○	言語知識 (中国語) I	中国人ネイティブ講師から語学を学ぶ	2 後	30	1			○		○		○
72			○	言語知識 (韓国語) I	韓国人ネイティブ講師から語学を学ぶ	2 後	30	1			○		○		○
73			○	実践数的 I 数的推理	数学的な基礎知識を基に、文章問題を解答する	2 前	30	1	○				○		○
74			○	実践数的 II 判断推理	論理的な思考を基に、文章問題を解答する	2 前	20	1	○				○		○
75			○	実践数的 III 空間把握・資料解釈	数学的な基礎知識や空間把握力を基に、問題を解答する	2 前	24	1	○				○		○
76			○	実践社会科学 I 政治	基本的人権など憲法の基礎知識から本試験レベルの実践的知識まで学ぶ	2 前	20	1	○				○		○
77			○	実践社会科学 II 経済	財政政策・外国為替などの経済分野と労働問題などの社会分野の基礎知識と本試験レベルの実践的知識まで学ぶ	2 前	24	1	○				○		○

78			○	実践人文科学 Ⅰ 地理	気候や各国の産業などの基礎知識と本試験レベルの実践的知識を学ぶ	2 前	20	1	○					○				○
79			○	実践人文科学 Ⅱ 歴史	大和政権から昭和までの日本史と中国の歴史を学ぶ	2 前	30	1	○					○				○
80			○	実践言語Ⅰ 文理・国語	文章読解と本試験レベルの実践的な国語を並行して進める	2 前	15	1	○					○				○
81			○	実践演習Ⅰ 数的処理	基礎知識から実践的知識をアウトプットすることで知識の定着を図る	2 前	24	1		○				○				○
82			○	実践演習Ⅱ 社会科学	政治・経済の基礎知識から実践的知識をアウトプットすることで定着を図る	2 前	28	1		○				○				○
83			○	実践演習Ⅲ 人文科学	地理・歴史・倫理の実践的知識をアウトプットすることで定着を図る	2 前	24	1		○				○				○
84			○	実践答案練習 Ⅰ	模擬試験を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2 前	48	2		○				○				○
85			○	直前答案練習 Ⅰ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2 前	108	4		○				○				○
86			○	公務員時事対策	自然科学から国際問題まで幅広いジャンルの社会時事を学ぶ	2 前	30	1	○					○				○
87			○	公務員適性検査演習Ⅱ	公務員試験で重視される事務適性試験の得点力を強化する	2 前	40	2		○				○				○
88			○	公務員教養論文対策	公務員教養論文試験対策のレクチャーおよび実践練習を行う	2 前	30	2		○				○				○
89			○	基礎自然科学 Ⅴ 理数科目 総合	物理・化学の基礎知識を習得する	2 前	20	1	○					○				○
90			○	実践数的Ⅳ 数的総合	数学的な基礎知識を基に、文章問題を解答する	2 前	40	2		○				○				○
91			○	実践自然科学 Ⅰ 生物・地 学	生体から自然環境までの生物分野、地球の内部構造から宇宙までの地学分野を学ぶ	2 前	28	1	○					○				○
92			○	実践自然科学 Ⅱ 物理・化 学	物理分野は基本的な公式を覚え、運動・熱・電気などの仕組みを学び、化学分野は物質の仕組みや物質の変化を学ぶ	2 前	28	1	○					○				○
93			○	実践演習Ⅳ 自然科学	自然科学分野の基礎知識をアウトプットすることで知識の定着を図る	2 前	16	1		○				○				○

110			○	公共ボランティア実習Ⅰ	ボランティアの基本的な在り方を学び、座学を基に実際にボランティアを体験する	2通	30	1			○	○	○
111			○	公共ボランティア実習Ⅱ	ボランティアの基本的な在り方を学び、実習も踏まえて理解を深める	2通	30	1			○	○	○
112			○	法律研究	身近な法律に関する講義を受け、研究および発表を通じて法律の考え方を学ぶ	2通	30	1		○	○		○
113			○	行政研究	災害対策に関する講義を受け、研究および発表を通じて防災への理解を深める	2通	30	1			○	○	○
合計								113	科目	171 単位 (単位時間)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 卒業の認定は、修業年限以上在学し、1700時間以上を履修し、かつ定められた授業科目及び単位数（62単位）を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出により評価する。なお、本校において必要と認めただけの場合に限り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験を受験しなかった者に対して行う。再試験は試験等受験の結果、不合格になった者に対して実施する。 また、学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とし、秀、優、良、可を合格、不可は不合格とする。授業科目の成績は、前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりG P (Grade-Point) を与える。	1 学期の授業期間	22 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。